

かながわコミュニティカレッジ講座 修了生インタビュー

「聞き書きボランティア養成講座」受講

講座実施団体：聞き書きの樹

令和5年度の『聞き書きボランティア養成講座』では、多くの受講生が作品を完成させ、フォローアップ講習へも20名を超える方が参加されました。講座修了後も熱心に活動を続けていらっしゃる、修了生の松田悦子様を講座実施団体の聞き書きの樹様よりご紹介いただきました。

※「聞き書き」とは、話し手さんが、自分の人生を振り返りながら話したことを、その方の話し言葉で書いて、小さな冊子にして残すことです。

松田悦子（敬称略）。戸塚区在住。看護師の資格を活かして、がん治療後のリンパ浮腫のケアに携わるリンパドレナージュセラピストとして勤務しながら、寿町の住民の話を聞いている。

～聞き書きとの出会い～

「大学のグリーフケア（死別の悲しみを抱える遺族のサポート）の講座に出ています。そこで『聞き書き』という言葉を知りました。誰かの話を聞かせて頂き本にする。すごく興味を持って、いろいろ探すようになりました。

コミカレ講座は、昨年度の講座に参加した仲間からの情報で申込みました。実は私、最後の最後の番号なんです。キャンセル待ちで、やっと受講することができました。今年はまだ駄目かと思っていました。駄目



ならまた来年申込もうと。

今年は看護師のレジェンド、秋山先生のご講義もあり、参加出来て本当に良かったです。」

～寿町での聞き書きについて～

講座の中で講師の渡辺先生から、寿町で聞き書きをするというお話がありました。無記名のアンケートで一人だけ反応して「行きたい」と書かれた方がいらっしゃったのですが、それが松田様だったのですね。

「グリーフケアの講座の話に戻ってしまのですが、そこでは実習も必須でした。誰かのお話を聞かなければならなかったのです。それで寿町のクリニックの大先輩に、そこの方のお話を聞かせてくださいとお願いしました。」

講座以前に寿町に注目なさっていたとは。不思議な縁を感じます。

「グリーフケアの実習では三人の方からお話を聞かせていただきました。そのうちのお一方はその後亡くなれましたが、聞かせていただいたお話はとても貴重なものでした。

寿町にお住まいの方々は日雇い労働をしていたり生活保護を受けていたりする方が多く、なんとなく自分とは住む世界が違う人、というイメージがありました。でも話してみると変わらない、同じなんだと。自分の中にあった偏見に気づきました。

それぞれに輝いていた時があり、それぞれにドラマチックで。実習が終わってからも、もっと寿町の方々のお話を聞きたいと思っていましたので、渡辺先生が寿町で聞き書きをなさると知った時はやったー！という感じだったんです。」



一人で歩くことに怖さはなかったですか？

「初めはちょっとドキドキしながら歩いていましたが、今はだいぶん慣れましたし、怖い思いをしたことは一度もありません。」

男性が多いイメージですよ。

「そうですね。若い方もいらっしゃいますが、感覚では60代以上の男性が多いかと。最近では外国にルーツを持つ方も増えてきているようです。英語圏の方ではない方もいらっしゃるようなのでコミュニケーションを取るのには本当に難しいようです。」

～これからの活動について～

「これからも寿町での聞き書きは、続けていきたいと思っています。なぜこんなに寿町で活動したいと思うのか、実は自分でもよくわからなくて。ずっと続けていけば、その理由が見つかるかなと思っています。」

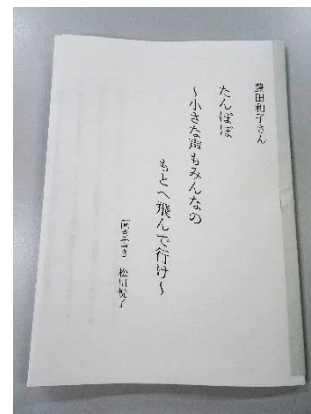


とにかくたくさんさんのエネルギーをもらえるというか、楽しいんです。今まで知りえなかったことを教えてもらえる町、というか。」

聞き書きは楽しいですか？

「実は楽しいばかりでもなくて。話を伺うのは楽しいのですが、文章にするのはそれなりに大変です。交流会でみなさんのお話を聞き、そういうふうになれば効率的にまとめられるんだという気づきがあったりして、取り入れていこうと思ったりもします。」

いつか書かれたものを読ませてくださいね、とお願いをしました。寿町の方からの聞き書き、ぜひ読んでみたいです。



令和6年3月7日取材
小林

(かながわコミュニティカレッジ事務局)